

「読みもの」と「視聴覚教材」を用いた学習の展開

地理歴史 世界史B 普通科・第2学年

石川県立能都北辰高等学校・教諭

1 事例の概要

本校の普通科では、地歴・公民の学習を行う上で、中学校までの学習内容が十分理解できていない生徒が多く、語句を覚えること、事象を思考すること、表現することを苦手としている。このような状況の本校において求められる「確かな学力」とは、たくさんの語句を体系づけて暗記することよりも、歴史事象の「読みもの」や「視聴覚教材」を通じて、何を感じ取ったか、どのようなことを推測したかであり、自分の意見や感想をまとめて表現できる力をつけることの方がより重要であると考えます。

また、教材として提示する歴史事象の「読みもの」、「視聴覚教材」の内容は、人間の生き様であり、人間社会はどうあれば安定、幸福、平和が得られるのかということを考えさせることができる教材を用意しなければならない。このような学習は、生徒の今後において、読書や文化遺産、様々な古典作品に触れることで自分を向上させようとする生き方につながると考える。

2 実践内容

(1) 目標

世界史学習への関心と学習意欲を高め、「人間とは何か」「社会はいかにあるべきか」との問いを追究する態度を高める。

(2) 指導上の視点

- ① 歴史を学ぶ意味は、「人間とは何か」、「人間はいかに生きるべきか」「人間社会はいかにあるべきか」の追求であり、社会制度や文化、技術面での進歩の違いはあっても、根本的な人間の本質に大きな変化はなく、過去の出来事や歴史上の人物の生き様から私たちは、先の見えない現在・未来に生きるための智恵と気概を学ぶことができるとの認識を深めさせる。
- ② 歴史は単なる事件や人物、文化財の名称や名前を覚える暗記科目ではなく、政治・経済・社会・文化など、多様な視点でその時代を分析する総合的学問であることの認識を持たせる。
- ③ 歴史は壮大なドラマである反面、私たちの身の回りの生活の中にも歴史的遺産が多々あることを認識させる。

3 指導の実際

『古代ローマ』の学習事例より

学習内容	生徒の学習活動	教師の留意点
読みもの① ・ポエニ戦争でローマとカルタゴの勝敗を分けたものは何か考えよう	・ローマとカルタゴの国の体制の違いについて考える。 ・農民中心のローマ軍がハンニバルの傭兵軍に勝利できた原因を考える。	・ローマとカルタゴの両国の国益や体制の相違を明確に説明する。 ・ローマ軍のねばり強さの原因や、ローマに征服された都市が離反しなかった原因などに言及した説明をする。
視聴覚教材 ・古代ローマとアジアとの交易を知り、古代世界	・ローマ人に普及した絹や香辛料はいかにもたらされたものかを知る。 ・ローマの豊かさをもたらしたものは何で	・前回の授業で、ローマが地中海帝国となり、インド洋の季節風貿易を通して東方の産物がもたらされていたことを

の広いつながりを理解する	あったかを知る。	おさえておく。 ・ビデオはNHK『文明の道』より
読みもの② ・古代ローマの全盛時代の人々の暮らしを知り、衰退に向かう原因を考えよう	・1700年程も昔のローマ社会の当時の生活風景より感じた感想をまとめる。 ・高い都市文明を誇ったローマ帝国がなぜ滅びたのかを考える。	・資料集の写真（円形闘技場、水道橋、道路、都市の遺跡）を確認させた上で、当時の人々の生活を紹介したプリントを読ませ、千年、二千年の歳月における人間生活の根本的な変化はないことを実感させる。

C-1 指導案

C-2 学習プリント

C-3 読みもの①

C-4 読みもの②

4 成果と課題

(1) 成果

① 読書に対する関心の深まりと歴史への興味づけ

「読みもの」プリントは、短い文章(B4に1枚程度)ならば、教室内の8人程度に音読させているが、読んでいる生徒のみならず、それ以外の生徒も集中して聞いている。やや難しい文章だが授業中に行うことで、普段は読書をしないう生徒でも意欲的に取り組んでいる。また、視聴覚教材で『スパルタカス』や『ベン・ハー』等の歴史映画を視聴させると、生徒たちは、「続きが見たい」「もっと見たかったのに残念」などと感想を述べている。

② 歴史を学ぶ意義への認識の深まり

「読みもの」プリントは、世界史の授業の各単元で多数使用するが、教科書を読むだけでは味気ない歴史学習が、人物の伝記、事件の概要、その時代の人々の生活などをはさむことで楽しく深まりをもたすことができる。2年生より世界史を学んでいる3年生に、「歴史を学ぶ意義について」という課題に取り組みさせたが、真摯に考えた生徒も数多くあり、歴史のもつ魅力を改めて認識することができた。

D-1 生徒の回答

(2) 課題

① シラバスや単位数との関係の問題

本校の世界史Bは2年生、3年生で5単位である。この単位数で授業内に「読みもの」や「視聴覚教材」を導入することは、「確かな学力」がつくことだとは確信していても、両者のバランスをとって実施していくことは容易ではない。これを解決する方策として、教師の説明をよく聞いて考えてもらうために、板書する時間を減らし、ノート形式の学習プリントを毎授業に配付することにより、限られた時間で効果的な学習ができるように工夫した。

しかし、人物や事件、時代像への感想や批評を考えて書かせる学習は、それを行うための十分な時間をとらねばならず、ともすると、読んだだけとか、視聴しただけとなってしまうこともある。

② 近年の読書離れの影響

これまでの授業実践において数多くの「読みもの」プリントを作成したが、それを授業だけで使用するのは難しい。そこで、家庭学習としてプリントを読ませ、自分の感想や批評を書かせることを検討しているが、近年の生徒は携帯電話でのメールやインターネットに多く時間を費やしているためか、読書の習慣が定着していない生徒が多く、実施には困難を感じている。

だが、歴史的な人物や事件に興味、関心を持ち、自発的に調べ、書物を読む意欲を引き出すためにも、歴史の魅力が生徒に伝わるよう授業内容をより工夫し自らの情熱を傾けていきたい。